

テーマ

子どもが周りの目を気にしすぎるようになった・・・
親はどうすればいい？



エピソード

小5のひなたさんは最近、「この運動靴を買って」「この筆箱を買って」など、まだ使えるのに新しいものを欲しがるようになりました。

今までのひなたさんの好みと違うものを急に欲しがるようになったので話を聞いてみると、同じ友達グループの、まきさんの好みだということが分かりました。グループの他の子どもみんな、まきさんの好みに合わせようとしていることが分かりました。

ワーク1

あなたなら、ひなたさんにどんな声をかけますか？

ワーク2

ひなたさんは、今どういう気持ちだと思いますか？

話し合いの後に、ワーク3をお書きください

ワーク3

これから、ご自分のお子さんの思いと、親としてのあなたの意見とが食い違った時、どうしていこうと思いますか。

ポイント

子どもの成長にともない

人として向き合い 子どもなりの意見を引き出す

資料

高学年はグループ化、人間関係のトラブルが増える時期

- ・小学校高学年といえば、グループ化やグループ内での人間関係のトラブルが多くなります。この時期の子どもは「いつでも同じメンバーで行動する」傾向が強いだけに、子どもがよく言う「みんな」という言葉は「同じグループに所属する人たち」を意味する場合があります。極端な言い方をすると「**グループ=世界**」という認識です。それゆえ一度トラブルが生じると複雑化・深刻化する可能性が高いので対応に苦慮することが多いです。

人として尊重し、子どもなりの意見を引き出す対話を

- ・子どもは子どもなりの考えや意見を持っているもの。おげに親が考える「正解」に従わせるのではなく、**ひとりの人格をもった人間として向き合う**ことも必要になってきます。「どうしてそう思うの？」など、**子どもなりの意見を引き出せる対話**をしましょう。まずは、親の意見ははさまず「～が心配なんだね。」など、子どもの感情をそのまま言葉にして返しましょう。先回りしてアドバイスせずに見守り、「私はあなたの味方」という気持ちで子どもの気持ちを受けとめましょう。
子どもが納得いく答えにたどり着けるよう導いてあげると良いでしょう。

親に悩みを打ち明けやすい関係づくりを

- ・ここで重要になってくるのが、日頃からの子どもとのコミュニケーションです。子どもの学年が上がるごとに、スマホを子どもに持たせる割合が増え、子どもと会話する時間が減っていきます。そうになると、葛藤した気持ちや言葉の行間に隠された本音に気が付きにくくなってしまいます。子どもから話しかけられた時は、どんなに忙しくても「うんうん。」などあいづちをうち、よく聞いている思いを伝えましょう。また、「〇〇ちゃん、お疲れ様」「〇〇ちゃん、いつもよりたくさん食べたね」など認める言葉やちょっとした変化を言葉にしましょう。**親が子どもの心のよりどころになる家を目指し、子どもが悩みを打ち明けやすい関係づくり**をしてあげたいですね。